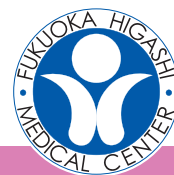


ちどり

vol.58

JANUARY 2025



2025 新年のご挨拶

福岡東医療センター

特集1 脳神経外科のご紹介

特集2 リハビリテーション科のご紹介

Contents

- 新年のご挨拶
- チーム医療：いずみ摂食ラウンドチーム
- 第78回 国立病院総合医学会報告
- おすすめスポット：薬剤部DI室
- 古賀市健康福祉まつり
- 総合支援センタートピックス



病院の基本理念

「患者よし、職員よし、病院よし」

病院の運営方針

- ・病む人の人権を尊重し良心的な質の高い医療を提供します
- ・安全で心温まる医療を提供します
- ・臨床研究を推進し医学・医療の進歩に貢献します
- ・教育研修を通して人材育成に努めます
- ・新しい医療情報を発信し地域医療の発展に貢献します
- ・職員が一体となり健全な病院経営に努めます

新年あけまして おめでとうございます

なかね ひろし
院長 中根 博

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、よい年末年始をお過ごしになったことと存じます。2025 年は「乙巳（きのとみ）」の年にあたるとのことです。これまでの努力や準備が実を結び始める時期を示唆しているそうです。辛抱して頑張れば、結果が出てくる年になると思いますので、明るい未来が来ることを期待して、今年1年を過ごしていきましょう。

さて、2024 年を振り返ってみますと、新型コロナウイルスの影響はほぼ払しょくされ、通常の診療体制に戻ることができ、新入院患者数、在院患者数はいずれも 2023 年を上回る状況で推移しました。

しかし、物価高騰ともなって様々なコストが上昇したことにより、経営は厳しくなっています。この傾向は当院だけでなく、機構内の多くの病院でも同様です。現在の診療報酬体系の下で NHO が自収自弁で国の政策医療やセーフティ系の医療を今後も担っていくことは困難な状況になっていることから、昨年、機構本部は全病院の院長にヒアリングを行い、その意見をまとめて、新たな NHO ビジョンを作成中です。そのビジョンをもって国に働き掛けていくとのことです。良い方向に動いていくことを願います。

昨年のトピックは、7月に当院にとって初めての新入職者対象の宿泊研修を、宗像のグローバルアリーナで開催したことです。初めての開催であったにもかかわらず、準備委員の方々の素晴らしい企画運営のおかげで、多くの参加者から「楽しかった」という声をいただいた研修となりました。入職して3～4か月目は、仕事、人間関係で、不安を抱えている時期ですので、同期で悩みを語り合い、人的ネットワークを作る良い機会になったと思います。今後も当院の予定行事として、継続していこうと思っています。

また、当院では、昨年からさまざまな工事に取り掛かっています。まず昨年 12 月に透析室の拡張を終えました。今年は、2 月に電子カルテの更新予定で、その後も、手術室の改修整備、リニアックの更新と、病院機能を強化する投資が続きます。昨年機構本部は、機構内の病院を新たなグループに再編成し、当院はトップグループに入ることとなりました。これは、ここ数年の当院の診療実績を評価していただいた結果であり、院長として大変うれしいことでした。地域の基幹病院として発展充実していくことを期待されていると思いますので、今後も当院の診療機能を充実させ、患者さんに安心安全な医療を提供し、職員が働きやすい環境で業務に集中できるよう努めていく所存です。



脳神経外科のご紹介

脳動脈瘤について

脳神経外科 福岡 博順
ふくもと ひろのり

【医師紹介】

この度、福岡東医療センターに赴任いたしました福岡博順と申します。これまで福岡大学病院、国立循環器病研究センターなどで勤務し、脳卒中、脳血管内治療を中心に脳神経外科診療を行ってまいりました。

今回、新たに導入いたしましたフローダイバーター治療に関して紹介させていただきます。

【フローダイバーター治療の導入】

脳動脈瘤は成人の3～5%にみられる一般的な疾患です。多くは無症状ですが、破裂すると「くも膜下出血」を引き起こし、約3分の1が死亡し、同じく3分の1に後遺症が残ります。

近年、放射線検査や脳ドックの普及により、破裂前の「未破裂脳動脈瘤」が発見されることが増えています。破裂率は低いものの、破裂時のリスクを考慮し、予防的治療を検討することが重要です。残念ながら現時点で有効な薬物治療は確立されておらず、治療法には以下の2つがあります：

●開頭手術（クリッピング術）：動脈瘤に金属クリップを装着して血流を遮断する方法

●脳血管内手術（カテーテル治療）：動脈瘤内に金属コイルを入れて血流を遮断する方法



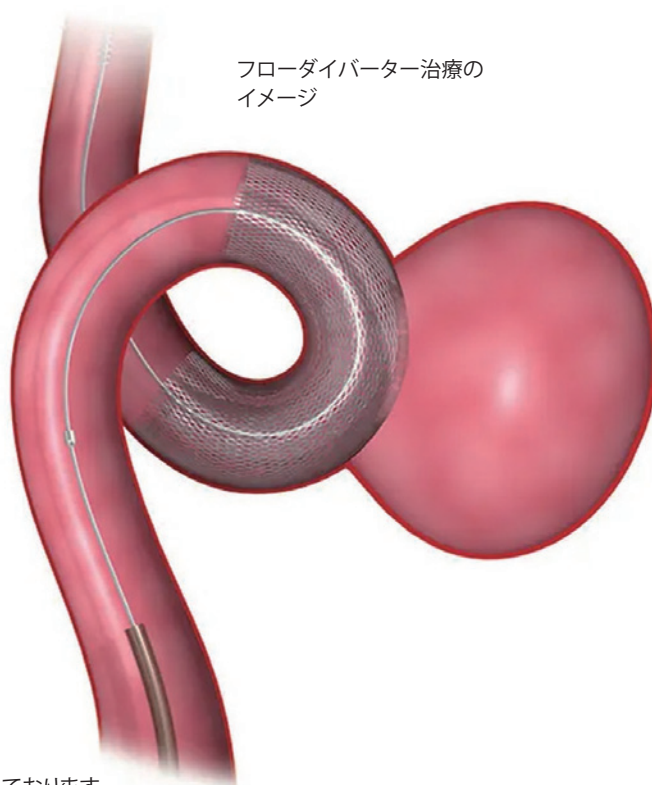
脳血管内治療の際は脳神経外科・脳血管内科の医師で協力して治療にあたっております。

現在、これらに加え新しい治療法としてフローダイバーターが注目されています。

フローダイバーターは、動脈瘤内に直接カテーテルを入れず、動脈瘤ができた血管にステントを留置して血栓化（血を固める）を促す治療法です（下図）。これによりこれまで対応困難であった脳動脈瘤の治療が可能になりました。

この治療は2015年に承認され、限られた施設で実施されてきました。私自身、2016年から治療に携わり、多くの研究と発表を行ってきました。2024年10月より、福岡東医療センターでもフローダイバーター治療が可能になりました。従来の治療に加え、新たな選択肢として患者さんに適した方法をご提案してまいります。

未破裂脳動脈瘤はすべての方が治療を必要とするわけではなく、多くの患者さんは年1～2回のMRI検査による経過観察を行っています。治療が必要かどうか迷われる際は、ぜひご相談ください。



リハビリテーション科のご紹介

リハビリテーション科について

リハビリテーション科医師 もりやま としゆき
森山 利幸

【医師紹介】

今年度の4月に福岡東医療センターに赴任いたしました、森山 利幸と申します。2018年に産業医科大学リハビリテーション医学講座に入局し、医師9年目になります。北九州市を中心に急性期から慢性期まで幅広いリハビリ診療に携わってきました。地域のリハビリのお困りごとを解決できる診療科を目指しています。よろしくお願いいたします。

【診療科紹介】

当院のリハビリテーション科には、リハビリテーション専門医が常駐し、急性期の疾患を対象に患者さんの日常生活動作(ADL)や生活の質(QOL)の向上を目指しています。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門スタッフは22名を擁し、地域医療との連携を重視したシームレスなリハビリテーション治療を提供しております。

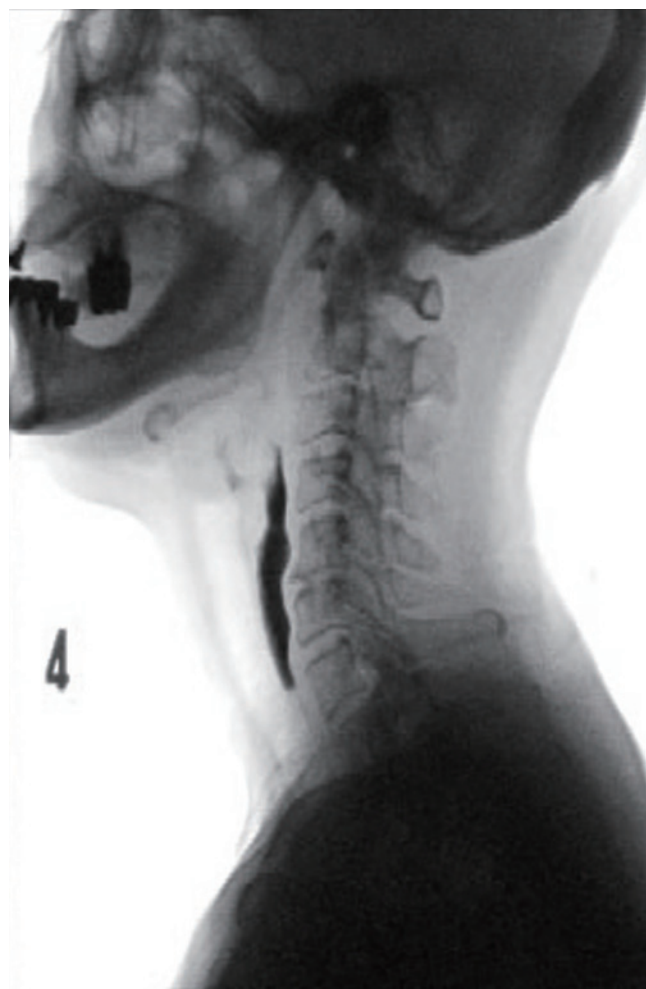
今年度からリハビリテーション専門医が1名常駐し、地域に開かれたリハビリテーション科を目指し、当院の脳卒中相談窓口とも密接に連携しながら、「痙縮外来」と「嚥下外来」を設置しました。脳卒中後の痙縮(異常な筋緊張による運動障害)に対するボツリヌス毒素A製剤を用いた治療を行っています。これに

より、患者さんの日常生活の改善を支援しております。また、「嚥下外来」では、嚥下障害を抱える患者さんに対し、嚥下造影検査や言語聴覚士による嚥下指導を実施し、安全な食事の継続や嚥下機能の維持、誤嚥性肺炎の予防に努めています。これらの取り組みを通じて、地域に根ざしたリハビリテーションサービスの提供を実現しております。

脳卒中後の痙縮や嚥下障害でお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、地域連携室を通じてお気軽にご相談ください。私たちは、患者さんが住み慣れた地域に戻り、安心して生活できる環境づくりを全力でサポートいたします。



ボツリヌス注射



嚥下造影検査

『食べる』喜びいつまでも！ おいしい♪ たのしい♪ うれしい♪ を目指して ～いずみ摂食ラウンドチーム～

いずみ東病棟と西病棟では、重い障がいをもちながらも経口摂取を継続されている入所者が、安全に食事を摂取してもらえるよう、月に2回摂食ラウンドを実施しています。摂食ラウンドでは、病棟看護師と日頃から摂食嚥下機能のリハビリを行っている言語聴覚士や姿勢の調整、食事動作訓練にかかわっている作業療法士、さらには食事形態や栄養面に対応している管理栄養士が集まり、姿勢や食事形態、栄養状態、介入方法などについて情報共有を行っています。

食事を楽しみにされている方も多い反面、誤嚥や窒息のリスクがある方も少なからずいらっしゃいます。いずみの摂食ラウンドチームでは、安全に経口摂取を継続してもらえるよう、日々取り組んでいます。

いずみ病棟では、四季を食で

感じていただけるよう定期的に行事食を提供しています。食事の見た目が楽しいと嬉しい気持ちがうまれ、食べてみておいしいと摂食意欲にもつながっていくのではないかと考え計画を行っています。





第78回 国立病院総合医学会報告

救急外来の看護研究報告がベストポスター賞を受賞しました。

演題名：リフレクション実施における看護師の重症患者家族看護介入の変化 救急外来 看護師部 富吉 桃佳 とみよし ももか

2024年10月18日、19日に大阪で開催された、第78回国立病院総合医学会にて「リフレクションによる救急看護師の重症患者家族看護の意識変化」についてのポスター発表をしました。

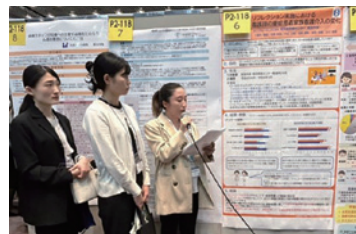
発表では、ロールモデルからの語りを聞くことで自分自身の家族看護への意識

変容につながることや、リフレクションを実施することで自身の家族看護の視点が広がるといった結果を報告しました。

座長より、救急外来という家族看護が重要でありながらも難しい現場で、この研究に取り組もうとした姿勢や、ロールモデルからの語りを聞くことやリフレクションを行った結果、重症患者家族看護を実践できていると感じているスタッフが、55%から89%へ増加したことについて評価されました。

また、「継続した取り組みを行い、救急外来の重症患者家族看護に活かしていってほしい」という講評を受け、今後も救急外来のスタッフ丸となって、重症患者家族看護を継続していくことが重要であると実感しました。さらに他院でも救急の現場における、家族看護に関するジレンマや、重症患者家族看護は共通した課題であり共感される内容なのだと感じました。

約2年間、共同研究者4名とともに取り組んだ看護研究が受賞につながり、とても光栄に思っています。共に頑張ってきたメンバーと大阪の夜を楽しく過ごすこともできました。看護師長をはじめ、たくさんの方々にも指導をいただいたことにも感謝申し上げます。今後もたくさんのお力添えをいただきながら患者さんの看護に活かしていきたいと思います。



食物アレルギーの移行支援における栄養指導の課題について報告し、ベスト口演賞を受賞しました！

なかやま みほ 栄養管理室長 中山 美帆

10月18日に大阪で開催された第78回国立病院総合医学会において「食物アレルギーにおける移行支援の課題について～管理栄養士の視点から～」という題名で発表させていただきベスト口演賞を受賞しました。発表した内容について報告させていただきます。当院小児科では食物アレルギー児に対し①原因食物の確定診断、②安全に摂取できる量の決定または耐性獲得の診断のために「食物経口負荷試験」を実施しており、管理栄養士はアレルゲンを除去する際に、成長に必要な栄養素が不足していないか問診し代替となる食品の提案や調理の幅を広げる栄養食事指導を行っています。食物アレルギー患者の8割は、就学前に耐性獲得すると言われていますが、耐性獲得できない場合は、成人期にシームレスな移行ができるように、ライフステージに合わせた段階的・計画的な支援が必要であるとされる一方で、栄養食事指導料の算定対象は9歳未満児に限定されており、管理栄養士の継続した介入にはハードルがありました。そこで今回、移行期支援の効率的・効果的な介入を行うために、学童期以降の食物アレルギー児の食事療法の理解と認識などについてアン

年齢に応じた子供の理解と対応 食物アレルギービジュアルブック 2023より改定引用

	除去安全対策	治療に向けた理解と意欲	好ましい働きかけ	
0～2歳	・アレルゲンを近づけない ・薬歴全体がアレルゲン除去、代替え食を食べる	・目的、意味を知らずに食べている	・アレルゲンをマスキングして食べる	完全除去
3～5歳	・わからないものは食べない	・食べてはいけない物を認識 ・食べるとお母さんが喜んでくれる(食べないと叱られる)	・食べたら、ほめる。一緒に遊ぶ	
6～10歳	・症状が出たら助けを求める	・アレルゲン表示を認める ・半歩先の目標をもって食べる	・計画的な摂取は保護者が用意する ・家族は除去のない食事をする	不要な除去食品を減らす
11～15歳	・自分で緊急時対応ができる	・自分のアレルギーを説明できる ・自分で食べるものを選ぶ ・将来の自分をイメージして食べる	・自分の意思で食べ方を決める	
16歳以上		・他人との食事の場を調整できる ・自分の社会生活を確立する	・過干渉しない ・朝離れ	除去解除

ケート調査を行いました。調査結果ではアレルゲンに対する認識はできているが、食品の表示の見方や栄養補給に関する学習機会がないことなどが課題に挙げられました。令和6年6月の診療報酬改定により栄養指導料の算定対象が16歳未満まで拡大されました。保護者中心の栄養指導からアレルギー児本人のセルフマネジメント能力を向上させる栄養指導へシフトし移行期支援の充実を目指して参ります。

当院の

おすすめスポット



薬剤部DI室のご紹介

薬剤部 いかり 礎 あやか 彩花
みやもと いおり 伊織
宮本



業務効率化を図り、
患者さん用の資材を
わかりやすく整理いたしました!

●DI(Drug information)室では、薬剤を安全に使用するための参考文献や各疾患のガイドラインなど、我々薬剤師が患者さんへ適正に薬物療法を提供するための医薬品に関する情報を取り扱っており、これらの情報をもとに医師や看護師など他職種からの質問に対応しております。

●また、患者さん向けのパンフレットやインスリン・吸入薬の練習用キットなどの資材を取り揃えており、より良い服薬指導を行うための準備をしております。

調剤室



内服薬と注射薬を部屋を分けて保管しており、
それぞれ担当の薬剤師が管理・調剤業務を行っております。

注射室



窓口



外来棟2階化学療法室の通りに
位置しております。御用の際はま
ずは薬局窓口へお越しください。

薬剤部は、薬剤師17名、薬剤助手4名の 計21名で日々業務に従事しております。内服薬や注射剤の調剤や抗がん剤調製、病棟薬剤業務、チーム医療への参加など、薬物治療の向上に努めています。

お薬に関して何かご不明な点がございましたら、お気軽にご相談ください!



第38回 古賀市健康福祉まつりに参加して

まつお まり
庶務班長 松尾 麻里

令和6年10月20日、第38回古賀市健康福祉まつりが開催されました。秋晴れの青空のもと約1,800人の方が参加され、終始大変賑わっておりました。

当院は毎年この健康福祉まつりに共催しています。また、市民の皆さんの健康福祉増進に貢献すべく、今年も当院から4種類のブース出展を行いました。出展にあたって院内の委員会を通じてアイデアを募り、約4か月の準備期間を経て、当日は職員32人が参加し一丸となって臨みました。お菓子を使った調剤体験や白衣・看護衣を着て写真撮影ができる「こども薬局体験・こども白衣体験」、がん模型パネルやパンフレットを用いた「がん検診啓発」、クイズやフードモデルを使って不足している栄養素に着目する「食教育」、介護予防のために2ステップで運動能力を評価する「ロコチェック」を企画し、どのブースも老若男女問わず多数の方にご参加頂きました。各ブースに参加して頂いた方からは、「参加

して良かった」「とても楽しかった」等のありがたいお声を沢山頂戴しました。

今回、健康福祉まつり実行委員会のお取り計らいにより、綿あめ配布や抽選会場設置場所の工夫等がなされ、来場者の方がより多くのブースに立ち寄って頂けるようになっておりました。このようなご配慮のおかげで、当院ブースにも多数の方に立ち寄って頂いたものと考えております。

一方で、職員間においても、まつり参加を通じて多職種で協力し合うことができる良い関係を感じられました。沢山の写真と共に職員同士の思い出もでき、大変貴重な経験となりました。今後は来年度の参加に向けて院内での振り返りを行い、さらに充実した内容を検討していきたいと思います。

最後に、この場をお借りして、来場者の皆様、実行委員会関係者の皆様、当院参加職員の皆様に御礼申し上げます。





紹介患者の事前予約受付 全診療科への拡大について

令和7年1月6日より、紹介患者の事前予約制を全診療科に拡大することになりました。

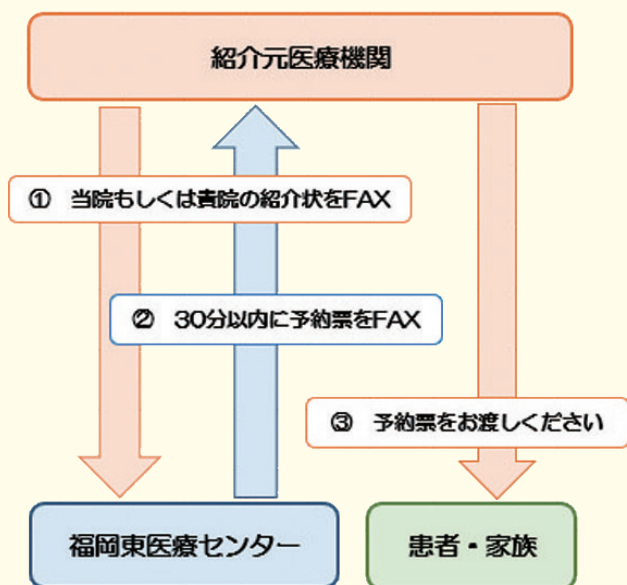
令和5年11月に6つの診療科(整形外科・脳神経内科・循環器科・外科・血管外科・皮膚科)で紹介患者の事前予約制を導入いたしました。連携医療機関の方々のご協力を頂きながら1年が経過し、初診患者の待ち時間短縮につながっております。日頃の連携に感謝申し上げます。

予約方法

- 1 「紹介状兼診療情報提供書」もしくは貴院の紹介状を紹介予約専用FAXしてください。
- 2 受領後30分以内に予約票を貴院にFAXしますので、患者さんにお渡しください。
全診療科で開始するにあたり、当院の「紹介状兼診療情報提供書」の書式を一部変更しました。

紹介予約受付時間 平日9:00~16:30

紹介予約専用 FAX: 092-405-7597 お問い合わせ TEL: 0120-057-220



地域交流会を開催しました

11月20日(水) 18:45~20:00

テーマ:「脳卒中患者・家族の支援」

【参加者】

院外71名・院内57名(計128名)医師、看護師、リハビリセラピスト、MSW、ケアマネージャーなど多職種

【参加者のご意見】

- 脳卒中疾患やリハビリテーションに関する理解が深まり今後に活かそう
- 地域の多職種スタッフとの意見交換会は、時間が足りず、もっと話をしたかった
- 脳卒中相談窓口について知ることができた
- ぜひ、今後も開催してほしい

今後も患者さんご家族さんにとって、よりよい地域連携につながるよう取り組んでいきます。

編集 後記

謹んで新年のお喜びを申し上げます。旧年中は、皆さまの温かいご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。令和7年の始まりにあたり、改めて連携の重要性を再認識し、地域医療の発展に向けてさらなる取り組みを進めてまいります。

本年は外科医の私にとって、手術室の大規模改修が大きな一大イベントです。手術室増室、麻酔管理システムの導入、无影灯のLED化、手術映像システムの導入などです。今後は手術を行う病院の集約化が進められると考えられます。当院が集約する方に回れるよう準備ができていると考えています。また改修によ

り、より質の高い、安全な外科医療が提供できるよう努めてまいります。

本年も、貴院との連携を深め、地域医療のさらなる向上に貢献していく所存です。どうぞ変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(内山記)

外来担当医一覧 令和7年1月1日現在 ※最新の担当医はホームページをご覧ください。 <https://fukuokae.hosp.go.jp/>受付
時間

- 1) 午前8時30分から午前11時00分まで。 ※予約の方は、指定された時間において下さい。
- 2) 土・日・祝祭日・年末年始は休診です。当院は救急告示病院です。救急の方は、診療時間外でも受付いたします。

診療科			月	火	水	木	金
内科新患（別紙参照）			当番医	当番医	当番医	当番医	当番医
脳神経内科 (新患予約制)	新患		田中 恵理	吉川 容司	山中 圭	田中 恵理	黒田 淳哉
	再来(脳血管内科)		吉川 容司	中根 博・山中圭	黒田 淳哉	芝原 友也	立花 正輝
	再来(神経内科)		-	田中 恵理	田中 恵理	九大医師	-
糖尿病	新患		野原 栄	-	川野 聡子	担当医	堤 礼子
	再来		堤 礼子・川野聡子	-	野原 栄・堤 礼子	川野 聡子	野原 栄
血液内科	新患		-	担当医	担当医	-	担当医
	再来		亀崎 健次郎	亀崎 健次郎	黒岩 三佳	-	黒岩三佳・坂本佳治
消化器科 (消化管・肝臓)	肝		高尾 信一郎	多田 靖哉	黒川 美穂	多田靖哉・高尾信一郎	-
	脾 胆		藤山 隆	大越 恵一郎	松尾 享	松尾 享	大越 恵一郎
	消化管		藤井 宏行	將口 佳久	井口祐希・興津亮太	田中 宗浩	安部 周壺
腎臓内科	新患		原 祥子	黒木裕介・羽倉丈史	黒木 裕介	荒瀬 北斗	木船 美菜
	再来		黒木 裕介	木船 美菜	羽倉 丈史	黒木裕介・永江洋	荒瀬 北斗
循環器科 (新患予約制)	第一診察室		小池 明広	小池 明広	小池 明広	中村 洋文	中村 洋文
	第二診察室		細谷 まるか	入江 圭	佐藤 義裕	藤田 泰裕	升井 志保
呼吸器科	新患		中野 貴子	中富 啓太	高田 昇平	山下 崇史	神宮司祐治郎
	再来		中富 啓太	高田 昇平	山下 崇史	高田 昇平	山下 崇史
			堤 央乃	堤 央乃	中野 貴子	井上 滋智	中富 啓太
			國武 陸	神宮司祐治郎	井上 滋智		中野 貴子
感染症外来				肥山 和俊			肥山 和俊
呼吸器外科			濱武大輔・緑川健介	(手術日)	濱武大輔・緑川健介	(手術日)	(手術日)
外科 (新患予約制)	消化器		内山 秀昭	休診（急患対応可）	井口 友宏	休診（急患対応可）	内山 秀昭
			由茅 隆文				長尾 吉泰
	乳腺		内山 秀昭	休診（急患対応可）	休診（急患対応可）	石田 真弓	休診（急患対応可）
		血管		休診（急患対応可）	松本 拓也	休診（急患対応可）	休診（急患対応可）
整形外科 (新患予約制)	新患		中家 一寿	倉本 孝文	(手術日) 外来休診	松下 昌史	(手術日) 外来休診
			松下 昌史	柏木 綾乃		清水 大樹	
			岡本 重敏				
	再来		倉本 孝文	清水 大樹		中家 一寿	
			衛藤 凱	古川 勇真		柏木綾乃・倉本孝文	
						衛藤凱・古川勇真	
脳神経外科	新患	保田宗紀・古賀隆之	福本 博順	(手術日)	福本 博順	福本博順・古賀隆之	
	再来	古賀 隆之	福本 博順		福本 博順	古賀 隆之	
皮膚科 (新患予約制)			中村 美沙	中村 美沙	中村 美沙	中村 美沙	中村 美沙
			藤井 晴香	藤井 晴香	藤井 晴香	藤井 晴香	藤井 晴香
小児科	午前	一般	黒川 麻里	村田 憲治	黒川 麻里	松尾 光通	今井 崇史
		専門(予約)	増本夏子・中原和恵	松尾 光通	李守永・中原和恵・松尾光通	李 守永・黒川麻里	中原・吉元(第1・3・5)石倉(第2・4)
	午後	専門(予約)	李 守永	水野勇司・松尾光通	李 守永・中原和恵	増本 夏子	李 守永・中原和恵
			中原 和恵	血液（江口克秀）	循環器（寺師英子）	李 守永	小児神経（藤井史彦）
			石倉稔也（第1・3・5）	アレルギー（第2・4）	腎臓（今井崇史）	黒川 麻里	アレルギー新患
			吉元陽祐（第2・4）	吉元（第1・5）石倉（第3）			〈喘息検査〉
放射線科	新患	月～金 渡辺 哲雄（※事前に必ず電話予約が必要です）					
	再来	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	
歯科口腔外科			吉田 将律	吉田 将律	吉田 将律	吉田 将律	（再来のみ）
			田尻 祐大	田尻 祐大	田尻 祐大	田尻 祐大	
婦人科	新患	内田 聡子	内田 聡子	内田 聡子	(手術日)	内田 聡子	
	再来	田中章子・宋威廷	田中章子・宋威廷	田中章子・宋威廷		田中章子・宋威廷	

*小児科の入院依頼は、病院代表 092-943-2331 から

入院依頼は入院担当医師（松尾・村田・今井）へ、当日の受診依頼は一般外来医師へ、夜間休日には小児科当直へご連絡ください。

●物忘れ外来《特殊外来》完全予約制（内科外来 内247）【担当医 田中恵】

『金曜日 9:00～10:00』

※予約受付は平日 月～金 13時～16時の間で TEL 予約

●緩和ケア外来 完全予約制（担当看護師 内8184）【担当医】

『火曜日・木曜日 午前中』

独立行政法人国立病院機構

福岡東医療センター

〒811-3195 福岡県古賀市千鳥1丁目1-1

HP <https://fukuokae.hosp.go.jp/>

TEL 092-943-2331

0120-212-454（地域医療連携室）

FAX 0120-087-437